

日本の医療・介護制度、技術で国際貢献

「医療・介護の安全保障を推進する民間会議」



国内外から多くの聴講者が訪れ、活発な情報交換が行われた

「医療・介護の安全保障を推進する民間会議」は、医療・介護分野の研究者、病院、介護施設の関係者を中心になって設立し、医療ジャーナリストとして著名な水巻中正氏（国際医療福祉大学大学院教授）が代表幹事を務める。医療・介護を通じアジア各国の関係者と親交を深め、日本の医療・介護制度、技術、ノウハウなどを伝える国際交流や、人材育成への協力などにより、各国との友好関係の構築に寄与することを掲げている。

5月には「医療・介護を通じて国際貢

献、交流は可能か」をテーマに東京医科歯科大学・鈴木章夫記念講堂でシンポジウムを開催、国内外から100人以上が聴講した。基調講演は、水巻氏が「東京宣言の意義と国際貢献」と題して務めた。特別講演は、まず韓国の韓柳大学・南南堯教授が「韓国の医療・介護の現状と国際交流」について。続いて総合警備会社セコムのグループ会社、セコム医療システム・布施達朗社長が「セコムの医療事業における国際展開の意味」と題し、同社が展開する医療・介護サービス、病院・介護施設向けに提供する各種システムの内容、それらのニーズが国内外で高まっている状況について説明した。

パネルディスカッションは、「アジアにおける医療福祉の交流を考える」というテーマで議論が白熱した。

アジアインビジネス 6/4 刊行 (タロイ・ハル)